

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年11月5日(2015.11.5)

【公開番号】特開2014-68991(P2014-68991A)

【公開日】平成26年4月21日(2014.4.21)

【年通号数】公開・登録公報2014-020

【出願番号】特願2012-219568(P2012-219568)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/15 (2006.01)

A 6 1 F 13/472 (2006.01)

A 6 1 F 13/539 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 13/18 3 4 0

A 6 1 F 13/18 3 3 1

【手続補正書】

【提出日】平成27年9月14日(2015.9.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

しかし、特許文献 1 及び 2 に記載の尿失禁パッドは、中間突起間の幅が、第 1 の突起間の幅及び第 3 の突起間の幅と同じになっているので、該パッドをショーツ等の下着の股間に取り付けて装着した場合、該物品の横方向からの力が中間突起に加わりやすい。その結果、該パッドはその装着状態において変形が起こりやすい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

後方部 B も前方部 A と同様の形状となっており、最大幅部 B 1 から後方括れ部 1 6 に向けてその幅が漸減している。また後方部 B は、最大幅部 B 1 から長手方向先端部 B 2 に向けてその幅が漸減している。最大幅部 B 1 から後方括れ部 1 6 までの間においては、後方部 B の側縁 1 7 B は略直線になっている。一方、最大幅部 B 1 から長手方向先端部 B 2 までの間においては、後方部 B の後端縁 1 8 B は、該先端部 B 2 に向けて凸の緩やかな弧状になっている。そして、後端縁 1 8 B と側縁 1 7 B とは滑らかに連なっている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

一对の第 1 の防漏溝 2 0 , 2 0 及び一对の第 2 の防漏溝 2 1 A , 2 1 B に囲まれた領域、特に中央部 C における幅方向の中央域においては、図 2 に示すとおり、複数の点状押圧

部 19 が形成されている。点状押圧部 19 は、前記中央域の剛性を高めて形状を安定させることで、おりものや経血等の体液を安定して吸収する観点、及び使用者に該中央域の吸収性の高さを喚起させる観点から形成される。点状押圧部 19 は散点状に配置されている。点状押圧部 19 の配置は規則的又は不規則的とすることができる。点状押圧部 19 は、平面視での形状が例えば円形や多角形であり得る。点状押圧部 19 は、表面層 11 と吸収層 13 と防漏層 12 とが一緒に押圧され、表面層 11 及び吸収層 13 が圧密化されて、該表面層 11 及び必要に応じ該吸収層 13 の剛性を高めることで形成されている。このような圧密化を行うには、例えば周面に凹凸を有する凹凸ローラーと平滑ローラーとを具備するエンボス装置を用い、表面層 11 と吸収層 13 と防漏層 12 とを重ね合わせた状態で両ローラー間に通して押圧するときに、凹凸ローラーの周面を表面層 11 に対向させればよい。複数の点状押圧部 19 を、中央部 C における幅方向の中央域に少なくとも形成することで、該点状押圧部 19 は、パンティライナ 10 の幅方向における曲げ剛性を高めるための圧縮手段として作用する。複数の点状押圧部 19 が該圧縮手段として作用することで、パンティライナ 10 の装着状態において幅方向からの外力が加わった場合に、中央部 C の変形が、剛性の高い部位である各点状押圧部 19 に起因して生じる抵抗力によって阻止されるので、中央部 C によれが一層生じにくくなるという利点がある。これらの利点を一層顕著なものとする観点から、各点状押圧部 19 は、その面積を 1 mm^2 以上、特に 2 mm^2 以上とすることが好ましい。面積の上限値は 10 mm^2 以下、特に 7 mm^2 以下であることが好ましい。例えば各点状押圧部 19 の面積は、 $1 \sim 10\text{ mm}^2$ であることが好ましく、 $2 \sim 7\text{ mm}^2$ であることが好ましい。面積がこの範囲内であることを条件として、点状押圧部 19 は、 $1\text{ cm} \times 1\text{ cm}$ の正方形の区画内に平均して 2 個以上、特に 4 個以上配置されていることが好ましい。個数の上限値は、32 個以下、特に 16 個以下であることが好ましい。例えば点状押圧部 19 の個数は $1\text{ cm} \times 1\text{ cm}$ の正方形の区画内に平均して $2 \sim 32$ 個、特に $4 \sim 16$ 個であることが好ましい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

長手方向に延びる前方部第 2 防漏溝 26 は、先端部 A2 寄りの位置に、該前方部第 2 防漏溝 26 から幅方向内方に分岐する内方分岐部 26A を有している。内方分岐部 26A は、その長さが前方部第 2 防漏溝 26 よりも短くなっている。内方分岐部 26A は、その一方の端部が前方部第 2 防漏溝 26 に連結している。他方の端部は自由端部になっている。この自由端部の位置は、前方部第 2 防漏溝 26 における先端部 A2 寄りの端部の位置を越えて先端部 A2 寄りになっている。内方分岐部 26A は、前方部第 2 防漏溝 26 と同様に、少なくとも表面層 11 と防漏層 12 とを一緒に押圧して表面層 11 を圧密化し、該表面層 11 の剛性を高めることで形成されている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

以上、これまで説明してきた防漏溝や押圧部のうち、パンティライナ 10 の左右両側部の位置に形成されているもの、すなわち第 1 の防漏溝 20、前方部第 1 防漏溝 22、後方部第 1 防漏溝 23、前方部第 2 防漏溝 26、後方部第 2 防漏溝 27、第 1 の押圧部 24、第 2 の押圧部 25、第 3 の押圧部 28 及び第 4 の押圧部 29 は、パンティライナ 10 の長

手方向に延びて該パンティライナ 10 を左右に二等分する縦中心線（図示せず）に関して対称形になっており、かつ対称な位置に配置されている。